

2013年7月21日 9-16時

第56回 DAM 実践セミナー

@大阪医科大学 MSSC 報告書

①開催形態

開催施設責任者：林 道廣（大阪医科大学附属病院医療技能シミュレーション室）

開催協力部門：医療安全対策室、医療プロフェッショナル支援室

開催講座責任者：南敏明（大阪医科大学麻酔科学教室）

②インストラクター

コースコーディネーター

羽場政法 日赤和歌山医療センター麻酔科

インストラクター

駒澤伸泰 大阪医科大学麻酔科学教室 MSSC

水本一弘 和歌山県立医科大学附属病院 医療安全管理室

アシスタント

藤原俊介 大阪医科大学麻酔科学教室 医療プロフェッショナル支援室

③参加者 14名

学内3名 初期臨床研修医 2名、消化器外科1名

学外参加 11名 麻酔科3名、救急科5名、小児科3名

三島救命医療センター 麻酔科

福井県立病院救命センター 救急科

慶應義塾大学病院 小児科

堀口記念病院 救急科

静岡県立こども病院 小児集中治療科

京都第二赤十字病院救命救急センター 救急部

埼玉病院 麻酔科

熊本赤十字病院 小児科

長崎労災病院 麻酔科

青森県立中央病院 救急科

東京ベイ浦安市川医療センター 救急科

④コース内容と学習目標

ハンズオンのところを2チームに分けて開催した

小児科や救急医の受講も多いため、緊急状況や小児の気道管理を学べるように工夫も行った。

	Aチーム	Bチーム
8:30-9:00	受付開始	
9:00-10:00	講義 ASA-DAM2013とAMA(羽場政法)	
10:10-10:40	喉頭展開困難とGEB(水本・藤原)	SGD困難とその対策(駒澤・羽場)
10:40-11:10	SGD困難とその対策(駒澤・羽場)	喉頭展開困難とGEB(水本・藤原)
11:30-11:40	休憩	
11:40-12:10	ISGDの使用方法(水本・藤原)	侵襲的気道確保(駒澤・羽場)
12:10-12:40	侵襲的気道確保(駒澤・羽場)	ISGDの使用方法(水本・藤原)
12:40-13:30	昼食	
13:30-14:00	フリーハンズオン(小児・間接声門視認型喉頭鏡)	
14:00-15:30	シナリオトレーニング	
15:30-15:45	閉会の挨拶・記念撮影	

⑤開催風景

講義 ASA-DAM と JSA-AMA の概説



気道管理ハンズオン

①挿管用声門上器具の訓練



②輪状甲状膜穿刺



③心肺蘇生中の気道管理



④頸椎固定状態での気道管理



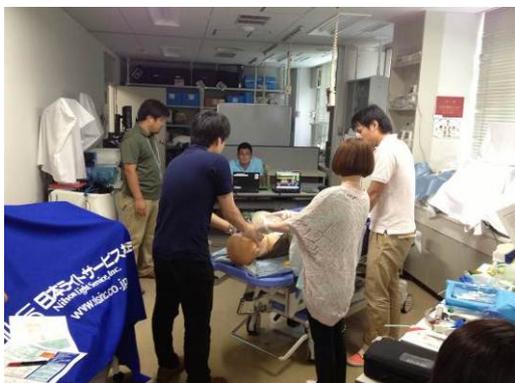
⑤小児における困難気道管理



⑥喉頭展開困難への対応

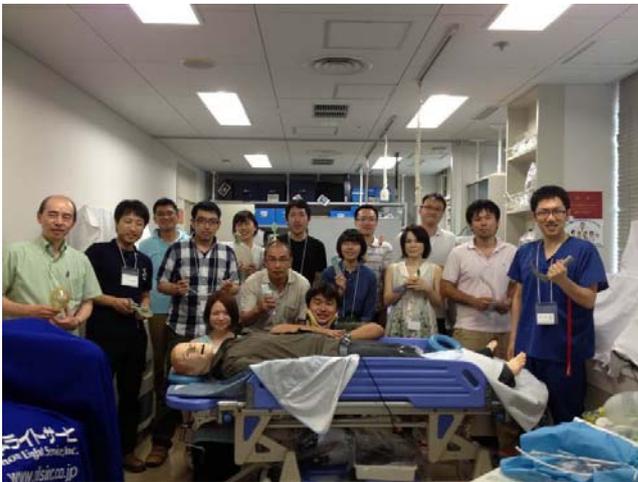


⑦シナリオトレーニング





⑧全体集合写真



⑤開催後のアンケート

14名の受講者からの回答を下記に記す

いつも看護師に準備をしてもらっている特殊喉頭鏡の組み立て方がわからなかった
挿管困難でなく換気困難の重要性を認識できた
輪状甲状膜穿刺を学べたのが何よりよかった
米国麻酔学会の困難気道ガイドラインを学べてよかった
小児科にも応用できる内容だった
様々な声門上器具をハンズオンできたのでよかった
救急領域でもこのような講習会を開催してほしい
麻酔科以外にも非常に有意義である
チームワークの大切さを痛感した。

⑥総括と今後の取り組み

今回は救急医が5名、小児科3名、麻酔科3名、外科1名、研修医2名と麻酔科医の数が少なく、麻酔科以外の診療科でも気道管理、特に緊急時対応が重視されていることがわかる。

次回の公募を合わせたMSSCでの開催は12月15日を予定している(北大阪シミュレーションセミナー)。駒澤MSSC副室長、藤原プロフェッショナル支援室副室長に加え学外からも日赤和歌山医療センター麻酔科羽場先生の協力を得たいと考えている。